



ご卒業おめでとうございます

PTA会長 楯列 あや

卒業にあたりPTAを代表いたしましてお祝いの挨拶をさせていただきます。ご卒業おめでとうございます。また、保護者の皆様、お子様が立派に成長し、高校卒業という門出を迎えられましたこと、同じ保護者の一人として、ともに喜びの思いを込めお祝い申し上げます。

並びに平柳校長先生をはじめ、諸先生方、関係者の皆様、この素晴らしい日は皆様がこれまでたくさんの愛情と細やかなご指導をくださいました賜物と心よりお礼を申し上げます。

さて卒業生の皆さん、皆さんが3年間通った都立農産高校の生活はいかがでしたか？同じ志を持った仲間との輪の中で学校行事や部活動、地域活動などに真摯に向き合った日々はとても充実し有意義だったことでしょう。また同時に多くの苦労や困難にもぶつかったことと思います。農業実習を通して直接土に触れ、作物を生産していく過程は他の普通科の高校生では得られない貴重な体験をしてきています。現在「令和の米騒動」などと言われている今、「農業」の重要性が増していくことでしょう。農業高校として「食」「緑」「農」など多彩なキーワードをもつ分野で3年間学んできました。これらの学びが今後の日常生活を彩り豊かにする糧になることでしょう。卒業生の皆さんの未来の輝かしい飛躍を心よりお祈り申し上げます。



卒業生へ送る言葉

東京都立農産高等学校長 平柳 伸幸

卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。

晴れてこの日を迎えられた皆さんに、心よりお祝い申し上げます。新たな一歩を踏み出す皆さんには、きつと素晴らしい出会いが訪れることでしょう。

さて、私は始業式や朝会において、「これからの時代」、「食」、「農」、「環境」の分野はますます重要になってくると言われています。このような中、農産高校で学ぶ皆さんは、次代を担う人材として期待されていることを忘れないでください。」という話を言い続けてきました。

卒業後、皆さんは様々な進路に進みますが、「食」、「農」、「環境」の分野がこれからの時代において重要視されていく中、農産高校の卒業生として「何ができるのか」ということを常に意識して生活してもらいたいと思います。また、農産高校で学んだ農業に関する知識や技術をはじめ、たくさんの学びから得た「豊かな人間性」を大切にしながら社会で活躍されることを期待しています。

ここで、サミュエル・ウルマンという19世紀のアメリカの詩人が、「青春」という詩を書いています。とても長い詩なので、その一部を紹介します。

「青春とは、人生のある期間を言うのではなく、心の様相を言うのだ。年を重ねるだけでは、人は老いない。理想を失う時に、初めて老いが来る」

皆さんは、今まさに「青春」の真つただ中にいますが、10年後、あるいは30年後にも、心のもちよう次第で「青春」と言えるのです。大いに理想を追い求め続けて、常に「青春」を謳歌してほしいと願っています。

卒業を迎えられた今、これまで皆さんの成長を支えてくださった保護者の皆様をはじめ、多くの皆様への感謝の気持ちを忘れないでください。そして、「感謝の気持ち」を直接、相手に伝えることの大切さも伝えておきます。

結びに、3学年PTAの皆様にはお子様の御卒業を心よりお祝い申し上げますとともに、本校の教育活動に御理解と御協力をいただきましたことに改めて感謝申し上げます。





卒業に寄せて

副校長 金子雄

三年生の皆さん、御卒業おめでとうございます。皆さんの努力と情熱が実を結び、この日を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。新しいステージへの第一歩を踏み出す卒業生の皆さんに、無限の可能性と輝かしい未来が待っていることを信じています。

三年間で特に印象に残っているのはどんな場面ですか。友達と一緒に過ごした時間、遅くまで課題に取り組み、時には笑い合い、時には励まし合った日々、今でも鮮明に思い出されるのではないでしょうか。皆さんの農産高校としての活躍や日常生活は、私たち教員、保護者の皆様、地域の方々など、身の周りの人々にもたくさん影響を与えてくれました。

これからの道のりには、さまざまな挑戦や喜びが待ち受けていることでしょう。そのすべてが皆さんをさらに成長させ、豊かな人生を築く糧となることを願っています。困難に直面しても、農産高校での学びや生活で見せてくれたような、前向きな姿勢で乗り越えていってください。そして保護者の皆様、本校の教育活動への御理解と御協力、そしてPTA活動を通じて厚い御支援をいただき本当にありがとうございます。

これから夢に向かって突き進んでいく108名の卒業生の皆さんの成功を心から応援しています。そして、またいつか会える日を楽しみにしています。



生徒会活動を終えて

前生徒会長

三年一組

櫻井 玖心花

今年の生徒会は去年に引き続き、未来の生徒会が活動しやすいように行ってきました。特にアンケートや目安箱を活用し生徒の意見に耳を傾けました。

目安箱を再利用することによって生徒だけでなく、先生からの意見ももらい、今まで以上に学校をより良く生徒が過ごしやすくなるように努めました。

また、新行事の計画、生徒会新聞の発行を行いました。新行事では、二年生を中心に進めていき、生徒会新聞では代議委員会の内容や、生徒会の定例会を生徒に見える化していききました。今年は今までやった事をうまく利用しながら、新しい事も同時に行った活動にすることができました。次の生徒会も農産高校をもっと素敵なものにしていく活動を行います。

今年一年間協力、見守ってくれた生徒や、運営に寄り添ってくれた役員さんなど本当にありがとうございます。

また、手助けをしてくださった先生方から御礼申し上げます。

卒業生へ贈る言葉

三年一組 担任 岡田 満江

卒業おめでとうございます。皆さんの高校生活には、それぞれの物語があったことでしょう。楽しい日々もあれば、苦しいときもあったかもしれません。それでも、ここまで歩んできたこと、その努力と成長を誇りに思ってください。

宮沢賢治は「雨ニモマケズ」という詩の中で、決して名声や富を求めず、ただひたすらに人のために尽くす理想の姿を描きました。それは、困難に負けず、誰かの力になれる人間でありたいという願いでもあったのでしよう。

これから皆さんは、新しい世界へと旅立ちます。その道は平坦ではなく、ときに雨や風が行く手を阻むこともあるかもしれません。しかし、どんな環境の中でも、自分の信じる道を歩み、誰かを思いやることを忘れなければ、きっと素晴らしい未来が待っています。

賢治は「世界がぜんたい幸福にならないうちは、個人の幸福はあり得ない」とも言いました。自分の幸せを追い求めるだけでなく、誰かの幸せを願う心を持つこと。その思いが、やがて自分自身の幸せにもつながるのかもしれない。

どうか、皆さんのこれからの人生が、「雨ニモマケズ」、強く優しく輝くものでありますように。

拝啓 萌芽の候

三年二組 担任 石田 多英

卒業まで残り僅か。振り返ってみると、いろいろなことがありました。

初担任の緊張で記憶が朧気な入学式から、タクシー事件やクラッカー事件、コンビニ事件など大小さまざまなハプニングがありました。一方で三年間連続優秀賞を獲得した農産祭や全員参加した修学旅行・体育祭の応援合戦など素敵な思い出もたくさんあります。考查前に教え合ったり、書類を確認し合ったり、複数人で示し合わせて面接練習を頼んだり、勉強や進路活動、部活動でんだかんだ支え合っていたのも二組の美点だと思っています。

高校生活はどうでしたか。本当は本意であったのかもしれないし、まだやりたいことがあったのかもしれないね。実は私は何度も専門科目の教員でなくて申し訳ない、ベテランの担任でなくて申し訳ないと考えていました。三年三学期の今でもまだその考えは消えていません。それでも、今の状況でできることをしようとして奮闘し、副担任の先生や学年の先生方、多くの先生方や皆さんにも助けられました。担任が全く分からない中、農産祭のHR展示も実習も課題研究の発表も、資格取得や進路実現も成し遂げた皆さんは私の誇りです。社会に出たら、わからないこと、できないこと、理不尽なこと、たくさんあります。周囲に助けを求めながら、自分にできることを模索して助け合って邁進し続けてください。

皆さんならできるはず。今後の活躍を期待しています。

敬具



卒業生へ贈る言葉

三年三組 担任 佐藤 駿樹

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。今日、この特別な瞬間を迎えられたことを心から祝福いたします。卒業は寂しい気持ちもありますが、それよりもこれから、みなさんと社会で一緒に働ける日が近づくことの嬉しさのほうが大きくあるのが心情です。

文部科学省の資料を見ると令和6年の農業高校生の生徒数は全国で67,063人でありこれは全国の高校生の2.3%にあたる人数です。74%は普通科の生徒で私たち農業科卒業の生徒は少ないです。私も農産高校の卒業生ですが、社会に出てから農業科の高校を卒業した人には滅多に出会うことができません。この2.3%と圧倒的少数派である私たちはこれからの社会を発展させていくうえで、とても重要な存在であり、活躍できる貴重な人財です。経済学者の宇沢弘文氏は『社会的共通資本』の中で「一国の社会的、文化的水準を高く維持し続けるためには、農業で生まれ育った若者の人数が常に一定の水準にあって、都市で生まれ育った若者と絶えず接触することによって、すぐれた文化的、人間的条件をつくりだすことは必要である」と述べています。私たちが農業科の授業で身につけてきた知識や技術などを土台として、これから社会に出ているいろいろな人たちと接触し、私たち自身や周囲の人たちそして社会と一緒に成長していけると考えています。

卒業生のみなさん、社会で一緒に成長しましょう！ 稼ぎましょう！ 数年後を楽しみにしています。



耕種

三年四組 担任 鶴田 靖浩

ご卒業おめでとうございます。卒業アルバムを眺めていると、皆さんを迎えた三年前にはいまだコロナの影響が根強くあったことが、若干の驚きとともに思い出されます。感染症の問題がなくなったわけではありませんが、今となっては隔世の感もありません。

コロナだけでなく、この三年間で社会は大きく変わりました。生成AIの劇的な進化はその代表例かもしれません。一年次の授業で、フレーム問題や記号接地問題があるからまだまだAI（汎用AI）が人間になることはない、と話した覚えがあります。しかし、今やそうも言っていられないのかもしれないかもしれません。あるいは、AIの主たる開発元でもあるテック企業のデジタルプラットフォームに情報（≡価値）を吸い上げられる私たちは、今や「農奴」である、という考え方（≡テクノ封建主義）すらあるそうです。

しかし、農産高校で農業を学んだ皆さんは、だからこそ農奴ではなく自律した人間として生きる術を、少なくともそのヒントを体得しているはずです。農場や実習室で生き物や農産物と接してきた皆さんは、AIが、少なくとも現時点では知らない生命の「意味」——それはたとえば花の美しさ、穀物の香り——を知っているのです。

それこそが何より大切なことです。どんなに技術が発展しても、たくさんのAIを操っても、土から離れては生きられません。どんな世の中になっても、人の営みは「土に根をおろし、種とともに冬を越え、風とともに生き」ることだと思えます。

ぜひ、根強く生きてください。そして皆さんがいる場所に今後、良い風が吹くことを祈っています。お元気で。